

文学部通信教育課程

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

文学部通信教育課程は、個々の学生の興味・関心に応える教育組織として意欲的な目標を設定し、それらを実現するためにさまざまな企画・立案がなされていることは高く評価できる。各学科とも大学教育の質を維持しながらそれぞれの目的に沿って合理的に運営されているが、相互に連携しながら全体としての統合には継続的な努力が望まれる。

また、2022年度学生支援の中期目標として、通信教育に学ぶ者として、学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆくとあるが、このことが今後の定員の未充足状況に対して有効な試みとなることを期待したい。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

文学部通信教育課程では、大学教育の質をより高めるために各学科において教育内容を精査するとともに、その改善のための努力を続けている。また、通信教育に関わる情報を共有して相互に連携するために、事務局を交えて通教関連学科連絡会議を開催している。同会議においては学習成果の測定に関する議論も行うなど、教学改革にも一定の役割を果たしている。通信教育課程において2022年度は共通する教養科目の学則改正を承認し、志願書の一部を見直した。さらに学生モニター制度を通信教育学生を対象として初めて実施し、学生のニーズの把握に努めた。教員の過重負担についての問題は解消を見ていないが、継続的に検討を続けていくことが必要となる。

今後は教授会で情報共有した学生の授業に対するニーズや要望をもとに、よりよいカリキュラムの編成に努め、新たな学習支援策の効果的な利用方法について検討するとともに、通信教育における社会人教育のあり方についても一層議論を深めていきたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学位授与の方針(ディプロマポリシー)を定めている。

<日本文学科>

日本文学科は、建学の精神「自由と進歩」を体現する学風を維持し、日本の文学・言語・芸能の歴史と現状について専門的に学び、自らの見解を自らの言葉で的確に発信できる人材を育成するという教育目標を実現することを目指し、必要となる教育課程を編成する。その課程を修了した者に学士の学位が授与されるためには、以下の1~4の資質・能力を身につけていることが求められる。

1. 日本の文学・言語・芸能文化の歴史と現状についての基本的な知識
2. 自らの専門領域の基本文献を正確に把握することのできる読解力
3. 魅力ある研究対象を発見し、自らの力で調査・考究する思考力
4. 研究の成果を的確に伝えられる日本語の表現力

<史学科>

史学科(通信教育課程)における教育は、学生が卒業するまでに以下のような見識・能力を修得していることを目標とする。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1. 国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識。
2. 史料の批判的考察から体系的理解に至る歴史学の分析方法を習得して思考力・判断力を培い、自主的・自立的に問題を発見・追究・検証する能力。
3. 通信学習による試験、レポート執筆、スクーリングによる対面授業、卒業論文指導等の訓練を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力。
4. 文化遺産の調査・保存を啓発し、また、次世代の教育に歴史学の成果を生かすことのできる能力。

<地理学科>

地理学科は、地理学科のカリキュラムのもと所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認める。

1. 人間の生活の舞台である地球表層の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身につけている。
2. 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
3. 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に発信することができる能力、地域社会のニーズにこたえられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。

はい

1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

1.1①②③

- ・学位授与方針 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html)
- ・日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571)
- ・『史学科のしおり』（通教用学科手引き書）第4版、2019年
- ・地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332)
- ・『地理学科のしおり』（通教用学科手引き書）、2022年

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

<日本文学科>

日本文学科の教育課程は、その教育目標を実現するため、学位授与方針に即し、つぎのように編成される。すなわち、他学部・他学科と共通の基礎科目と専門科目によって構成し、特に日本文学科独自の専門科目において、その専門性を広く把握すると同時に深く追求するため、文学・言語・芸能文化の3コース制を（2013年度より）採用する。

文学コースでは、古代から近現代までの歴史的な見通しの中で日本文学について学び、さらに中国文学・沖縄文学なども視野に入れたうえで、特定の時代や特定の領域の文学を研究することを目指す。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

言語コースでは、古典語の用法から現代日本語の変容までの広い領域で日本語について学び、方言・外国語と日本語の関係・理論言語学などの視点も理解した上で、特定の主題を通じて言語の本質を専門的に考察することを目指す。

芸能文化コースでは、各時代の芸能と、それらを育んできた歴史・宗教・文化について学び、日本の芸能文化の形成と展開を理解した上で、音楽・演劇や特定領域の日本文化に関して専門的に考察することを目指す。

3つのコースは必修科目と選択科目の組み合わせによって関係づけられており、学生は2・3年次以降いずれかのコースに籍を置いて学習を進める。4年次にはその研鑽の成果を発揮する卒業論文に取り組む。なお卒業論文は、日本文学科の教育課程における集大成と位置づけられる。

<史学科>

史学科（通信教育課程）のカリキュラムは、教育目標の達成をめざして、次のように体系的な構成を取っている。

1. 新入1年生に対して、学習の進め方やレポートの書き方に関する冊子を配付して、大学生としてふさわしい学習に適応できるよう指導する。
2. さらに1年生・2年生には幅広い歴史の勉強が必要であり、日本史・東洋史・西洋史それぞれに各時代別に概説の授業を設ける。
3. 2年生以降、歴史学の専門的教育に入る。専門的なテーマの講義を多数開講するとともに、学生は歴史資料学や演習科目の受講によって、専門的教育指導を受ける。
4. 4年生は教員の指導のもと、一つの研究課題に取り組み、卒業論文を作成する。卒業論文は学生の学業の集大成として位置づけられる。

<地理学科>

地理学科では、教育目標と学位授与方針にそって、以下に示す教育課程を編成している。

1. 幅広い知識や教養を涵養するため、教養課程の単位を卒業所要単位に含めている。
2. 地理学科の専門科目は、1年次では入門的な科目、2年次以降は地理学の様々な分野の基礎的知識を身につけるため各論科目が配置されている。また、3年次以降において、スクーリング科目が加わり、地理学の方法論や研究法を身に付ける、演習や実習科目が配置されている。
3. フィールドワークを通じて地域の実態を調査し、その結果をもとにレポートを作成することによって、調査技能、研究方法および文章表現能力を身に付けさせる「現地研究」がスクーリング必修科目の一つとして配置されている。
4. 課題を発見し検証していく思考力や表現力を涵養するため、「卒業論文」をカリキュラムの集大成として位置づけている。

1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
--	----

1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
------------------------------	----

【根拠資料】

1.2①②③

- ・教育課程の編成・実施方針
(http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo.html)
- ・日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571)
- ・『史学科のしおり』（通教用学科手引き書）第4版、2019年

- ・地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332)
- ・『地理学科のしおり』(通教用学科手引書)、2022年

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①単位制度の趣旨に沿った単位の設定を行っていますか。 はい

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学通信教育部学則」第30条(年間履修単位の上限)に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。 はい

1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。 はい

1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。 はい

1.4④シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。 はい

【根拠資料】

1.4①
・「法政大学通信教育部学則」第4章 教育課程(年間履修単位の上限)第30条、(教職課程及び資格課程)第28条の2

1.4②③

- ・『学習のしおり』
- ・『通信学習シラバス・設題総覧』
- ・『法政通信』
- ・通信教育部日本文学科ディプロマポリシー及びカリキュラムマップ
<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-map.pdf?date=2023036>
- ・通信教育部日本文学科カリキュラムツリー
<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/japanese-literature/subject/curriculum-tree.pdf?date=2023036>
- ・史学科カリキュラムマップ
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-map.pdf?date=20200220>)
- ・史学科カリキュラムツリー
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/history/subject/curriculum-tree.pdf?date=20200220>)
- ・『日本文学科のしおり』(通教用学科手引き書)第3版、2013年
- ・『史学科のしおり』(通教用学科手引き書)第4版、2019年
- ・『地理学科のしおり』(通教用学科手引き書)、2022年
- ・地理学科カリキュラムマップ
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-map.pdf?date=20230306>)
- ・地理学科カリキュラムツリー
(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/geography/subject/curriculum-tree.pdf?date=20230306>)

1.4④

- ・『学習のしおり』
- ・『通信学習シラバス・設題総覧』

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

・『法政通信』

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学通信教育部学則」第32条（既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学通信教育部学則」第29条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、あらかじめ学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい

【根拠資料】

1.5①

・『学習のしおり』

1.5②

・『学習のしおり』

・教育目標 (<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html>)

・学位授与方針 (http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html)

・教育課程の編成・実施方針

(http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo.html)

1.5③

・web シラバス・文学部

・日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571)

・『日本文学科のしおり』（通教用学科手引き書）第3版、2013年

・『史学科のしおり』（通教用学科手引き書）第4版、2019年

・地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332)

・『地理学科のしおり』（通教用学科手引き書）、2022年

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

文学部通信教育課程では、それぞれの学科が明確な学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）を定めている。

<日本文学科>

日本文学科は、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に照らして、下記のとおり検証を行う。

1. 入学段階において、出願書類を用いて、アドミッション・ポリシーに示すような適性・能力が身につけているか、また学修を継続できる意志や主体的に学ぼうとする意欲が見られるか、把握する。
2. 教養課程・専門教育課程の諸科目におけるレポートや試験の成果を通じて、幅広い知識や教養、専門分野の学問内容や研究方法、自ら問題を発見し解決するための思考力・調査力、自らの考えを論理的に表現するための文章力を身につけたか、把握する。
3. 文学・言語・芸能文化の3コースに籍を置く段階において、卒業論文第1次指導、卒業論文第2次指導を通じて、卒業論文の執筆に必要とされる体系的な専門知識や研究方法を身につけているか、把握する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- 卒業論文、単位修得状況、成績評価等を通じて、ディプロマ・ポリシーに示すような資質・能力を総合的に身につけたか、把握する。

<史学科>

史学科は、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に照らして、下記のとおり把握を行う。

- 入学段階において、出願書類を用いて、アドミッション・ポリシーに示すような能力・意欲が身につけているか、把握する。
- 教養課程・専門教育課程の諸科目におけるレポートや試験の成果を通じて、幅広い知識や教養、専門分野の学問内容や研究方法、自ら問題を発見し解決するための思考力・判断力・調査力・分析力、自らの考えを論理的に表現するための文章力を身につけたか、把握する。
- 卒業論文、単位修得状況、成績評価等を通じて、ディプロマ・ポリシーに示すような能力・資質を総合的に身につけたか、把握する。

<地理学科>

地理学科は、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に照らして、下記のとおり検証を行う。

- 入学段階において、出願書類を用いて、アドミッション・ポリシーに示すような能力・意欲が身につけているか、把握する。
- 教養課程・専門教育課程の諸科目におけるレポートや試験の成果を通じて、幅広い知識や教養、専門分野の学問内容や研究方法、自ら問題を発見し解決するための思考力・調査力、自らの考えを論理的に表現するための文章力を身につけたか、把握する。
- 夏スク・冬スクに設置されている「現地研究」の履修によって、野外調査の準備・調査方法・とりまとめなどに関する総合的な能力を身につけたか把握する。
- 夏スク・冬スクに設置されている「自然地理学演習」、「人文地理学演習」の履修によって、地理学分野の調査・研究を行う上で必要な総合的な能力を身につけたか、把握する。
- 卒業論文、単位修得状況、成績評価等を通じて、ディプロマ・ポリシーに示すような能力・資質を総合的に身につけたか、把握する。

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
【根拠資料】	
1.6①② ・大学の学修成果の把握に関する方針 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/seika_hoshin/tsushin/)	
1.6③ ・2022年度 第5回 文学部定例教授会 資料 17、18 ・2022年度 第10回 文学部定例教授会 資料 26	
1.6④	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・『日本文学誌要』 (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=165)
- ・『法政史学』 (<https://shigaku.ws.hosei.ac.jp/4-05-hoseishigaku.html>)
- ・『法政地理』 (<http://www.chiri.info/toppublication.html>)

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。

【教育課程・教育内容】

- ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と関連性の検証
- ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
- ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）

【教育方法】

- ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）

【学習成果】

- ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用
- ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み。
- ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み

特色	学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供
----	--

各学科とも教育課程の編成・実施方針にもとづき、適切な教育課程・教育内容を提供している。すなわち、専門教育課程では学科の専門領域に関する基礎的な知識の涵養から、具体的な研究テーマに対する深い考察まで、幅広くかつバランスよく学べる教育課程を設けている。また、卒業論文を必修とし、研究の成果を的確に文章化する力や、自ら課題を設定して主体的に研究する力の育成を重視している点も、学科共通の教育課程の特徴としてあげることができる。加えて、3学科とも教員免許状取得に必要な教育課程を編成している（地理学科ではさらに測量士補の資格取得が可能である）。一方、専門教育課程に加え、一般教育・外国語・保健体育から成る教養課程を設け、幅広い教養と視野を身につけることにも力を入れている。通信教育課程の各科目は通信科目・スクーリング科目として開講されており、学生の置かれた環境と各科目形態の利点を踏まえた、効果的な学修が可能となるよう配慮されている。

なお、上記以外の各学科の教育課程・教育内容の特徴は以下のとおりである。

【日本文学科】

「日本文芸学概論」「日本語学概論」等の必修科目に加え、「日本文芸研究特講」計16科目から成る選択必修科目を通じて、日本文学・日本語学の各領域を学び、「中国文芸史」「日本芸能史」「日本美術史」等の選択科目を通じて、日本文学に隣接する諸分野についても学べる教育課程となっている。文学・言語・芸能文化の3コース制をとり、卒業論文までの道のりを3つのモデルコースとして示している点も特徴である。

【史学科】

「日本史概説」「東洋史概説」「西洋史概説」「史学概論」を必修科目とし、専門科目の学習段階の初期に広く歴史学にアプローチする機会を設けている。また、このうち「史学概論」を除く概説3科目と「史学演習」をスクーリング選択必修科目としている。選択

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

科目は、歴史学の諸分野を幅広く学ぶ機会を設けるため、各分野から1科目以上50単位の修得を定めている日本史・東洋史・西洋史の各分野の科目群や、「日本考古学」「歴史資料学」等から成り立っている。

【地理学科】

「人文地理学概論（1）」「自然地理学概論（1）」「地理調査法（人文編）」「地理調査法（自然編）」を必修科目とし、基礎的な知識と調査方法を学ぶ場を設けている。また、スクーリング必修科目として「現地研究」等を設け、実地の調査にも力を入れている。選択必修科目では、人文地理、自然地理、地誌・その他の各分野より2科目8単位以上履修するものとし、選択科目では歴史学や経済学等に関わる科目群を配当し、幅広い分野をバランスよく学習することができる教育課程を構築している。

その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。

特色

対面授業、双方向授業の重視

【日本文学科】

通常の通信教育課程用科目に加え、市ヶ谷キャンパスの教室で行われている通学課程の授業（ただし6限、7限授業のみ）を「春期スクーリング」「秋期スクーリング」科目として通信教育課程にも開放している。つまり、通信教育課程であるにもかかわらず、通学課程の学生と一緒に、毎週、市ヶ谷キャンパスに通って授業を受けることができるようになっている。教室内で、対面で行うことにより、双方向授業がより効率的に運営でき、教員からのフィードバックも豊富に得られるため、学生たちの学習意欲も高まっている。

【史学科】

「春期スクーリング」「夏期スクーリング」「秋期スクーリング」「冬期スクーリング」科目として、「史学演習」を設置し、卒業論文執筆のための能力育成を図っている。教室内で、対面で演習形式の双方向授業を行うことにより、学生たちの卒業論文執筆意欲を高めている。

【地理学科】

通常に設置されている各期スクーリングの中で現地研究を実施している。現地研究は学科教員が2泊3日で10～20人の学生を連れて行うフィールドワークである。学生は教員とともに現地を訪れ、地理学研究の特徴である現地調査方法を具体的に学習する。

課題

特になし。

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。

文学部通信教育課程では学部の理念・目的の下でそれぞれの学科が明確な学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)を定めている。

<日本文学科>

日本文学科では、その目的に基づいた教育目標を達成するために、日本の文学・言語・芸能について関心をもつ者を広く受け入れる。ただし、通信教育課程においては、自宅

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

で日本文学の専門的な学習ができるだけの国語の学力が不可欠である。その適性・能力等を見極めるために、書類審査を中心とする適切な入学選考を行う。加えて、通信教育課程が情報化の進む21世紀社会に対応して、生涯学習教育の担い手となっていることを考慮し、自宅学習を継続できる意志と主体的に学ぼうとする意欲も重要な選考基準とする。

<史学科>

史学科（通信教育課程）の入学受入れ方針は、その教育理念・目標に基づき、多様な資質・能力の可能性をもった学生の入学に期待をかけており、そのうえで歴史学的な思考方法の習得を目指す意志のある者を通信教育課程の入学者として認めている。また、編入学・転入学も認めており、さまざまな経路から学生を集めているが、それは学生相互に良い影響を及ぼしており、今後もこの方針を継続する予定である。

<地理学科>

地理学科は、書類審査を通して、以下に示すような能力・意欲等を有する者の入学を認める。

1. 高等学校で履修する国語、外国語、地理、歴史、公民、数学、理科等について、卒業が認められる水準で教科内容を理解している。
2. 入学後の修学・研究に必要とされる基礎的な知識・教養を有している
3. 論理的な思考ができ、自分の考えを明快に表現することができる
4. 地理学科の専門分野に深い関心を持ち、強い学習意欲がある

2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
--	----

2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
-------------------------------	----

【根拠資料】

2.1①②③

- ・学生の受け入れ方針
(https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/tsukyo/)
- ・日本文学科オリジナルサイト (http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/?page_id=571)
- ・『史学科のしおり』（通教用学科手引き書）第4版、2019年
- ・地理学科サイト (https://geo-net.ws.hosei.ac.jp/?page_id=1332)
- ・『地理学科のしおり』（通教用学科手引き書）、2022年

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学選抜をどのように公正に実施していますか。
--

年に複数回行われる通読判定と称される入学志願書の審査による合否判定作業は、複数の専任教員がこれにあたり、公正かつ客観的に評価を行っている。また、そのつど判定結果・講評を学科会議において報告し、問題点や改善点等があれば審議することとしている。

【日本文学科】

- ・志望理由書の様式（設問や字数等）についても、学科会議で検討し、記述すべき内容を明確化するよう設問の文言を学科会議で確認している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・入学者選抜に用いる課題図書リストの内容に関しても、学科会議にて毎年検討し、指定図書の入れ替えを行っている。

【史学科】

- ・学務委員会における通信教育部全体の関係資料を学科において閲覧し、情報共有するようにしている。

【地理学科】

- ・判定結果を学科会議で報告し、全教員で判定結果について確認・検証している。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	いいえ
---	-----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

カリキュラム改革や広報活動をするなど、各学科でそれぞれ以下のような努力を行っている。

【日本文学科】

定員の充足のあり方に関しては通信教育課程全体に関わる大きな問題である。日本文学科でも定員の未充足については、認識しており、問題点を明確化し、改革を進め、2013年度から新カリキュラム（文学・言語・芸能文化のコース制、通信教育部生に対する通学課程夜間時間帯授業の開放、スクーリングの拡充）を実施し、努力している。大学公式HPだけでなく、日本文学科でオリジナルサイトを運営し、広く社会に向けて広報活動を行っている。また、教員個人のSNSアカウントを通じて、学ぶことの重要性和愉しさを社会にアピールする努力もしている。

【史学科】

入学定員の未充足状況については、社会人学生や生涯学習志向の中高年の学生が多いという通信教育部の特性から考えると、経済状況など社会のさまざまな影響が考えられ、学科としての努力にも限界があるという見方もある。しかし、教職員一体となって広報活動に努めている。たとえば、入学説明会における教員による講演や模擬授業を通じた魅力のアピール、広報媒体を通じた生涯学習の意義、在宅あるいは学内での自習の利便性のアピール、週末や連休を利用した連続3日間のスクーリングにおいて1科目・1学期分の単位修得ができるという魅力のアピール、さらに卒業生の大学に対するメッセージのアピールなどの施策を取っている。

成績不良あるいは履修不良により一定年数を超えて在学する学生については、通信教育部事務局より配布された資料によって学科会議においてこれを把握し、当該学生に学習計画書を提出させるという措置を講じている。

【地理学科】

新規入学者数、在籍者数は長期にわたって減少傾向にあった。地理学科単独での対応には限界があるが、そうした中でメディアスクーリングの授業を増やしており、新規入学者数の確保に貢献しつつある。今後、通信教育部全体の対策とともに学科としての対

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

応もさらに検討していく。現行カリキュラムの問題点を再検討してカリキュラムの一層の充実をはかり、それを学外へ発信するよう今後とも試みていく。通信制教育の実施大学において、地理学科は本学以外に存在しないことを再発信する方法もまた、事務部とともに再検討する必要がある。

表 1

学部・学科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.1①教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.1②専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	<p>文学部通信教育課程では、学位授与方針、カリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしている。関連 3 学科それぞれが通教主任を配置し、通教学務委員会および各学科会議の場で話し合い、教育課程に相応しい教員組織の整備に努めている。</p> <p>【日本文学科】 2013 年度から、それ以前の文学・言語の分野を中心にしたカリキュラムに芸能文化の分野を新たに加えたカリキュラムになった。これは在籍教員の研究分野を十分に考慮した上での変更ということもあり、新カリキュラム運営においても相応しい教員組織となっている。さらに、2014 年度 0.5 枠増の人事（文学コース担当）を実現でき、指導分野を拡充させた。そして、文学 11 名・言語 3 名・芸能文化 2 名の専任教員に加え、高い専門性を有する兼任教員の協力を得ることで、適切な体制でもって教育にあたっている。</p> <p>【史学科】 日本史・東洋史・西洋史の 3 分野において原始・古代から近現代史まで、また地域史あるいは地域間交流、さらに政治・経済・文化といった領域など、分野・時代・地域・領域を幅広くカバーするように努めている。学生の多様な学びの志向を想定し、専任教員のみでは対応困難なものにおいては、大学および学部、学科において定められた人事上の手続きを経て、適切な兼任（非常勤）講師を採用して対応するようにし、カリキュラムと教員組織との整合性に努めている。</p> <p>【地理学科】 総合科目としての地理学の領域を担当できるよう、自然地理学、人文地理学それぞれの専門分野のバランスに留意した教員組織になっており、また優秀な人材を内外から兼任・兼任教員として確保している。したがってカリキュラムに則った教員組織が整備されている。</p>

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

さい。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 	
特色	学生の自主的な学習を促進するための支援
<p>文学部通信教育課程は、卒業論文を必修科目としている点が特徴である。これにより、自ら課題を設定し、それを解決するという主体的な学びを促進している。さらに、その成果である卒業論文のうち優秀なものは、学科ごとに機関誌や大会で公表するようにしており、これが他の学生たちのモチベーションを上げ、さらなる主体的な学びを促すという相乗効果を生み出している。</p>	
【日本文学科】	
指導教員による推薦を経て、法政大学国文学会の機関誌『日本文学誌要』に掲載している。	
【史学科】	
指導教員による推薦を経て、法政大学史学会の機関誌『法政史学』に掲載している。	
【地理学科】	
法政大学地理学会の機関誌『法政地理』への掲載を積極的に行うよう指導している。また、例年3月に開催される全国地理学専攻学生「卒業論文発表大会」（日本地理教育学会主催）において、法政大学地理学科通信教育課程学生代表として発表するよう指導している。	
その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし。	
課題	
特になし。	

Ⅲ 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。	
年度目標	MDAP（数理・データサイエンス・AIプログラム）リテラシーレベル科目の通信教育課程カリキュラムにおける位置づけおよび活用方法について検討する。	
達成指標	MDAP（数理・データサイエンス・AIプログラム）リテラシーレベル科目の通信教育課程カリキュラムへの取り入れに関し、（2022年度の暫定的な「総合特講」としての扱いに続く）2023年度以降の運用を定めるための学則改定を行う。	
年	教授会執行部による点検・評価	
度	自己評価	A

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

末 報 告	理由	第8回教授会において、該当する学則改定に関し審議承認した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	MDAP 科目の通信教育課程カリキュラムへの取り入れを決定し学則改定したことで目標は達成された。
	改善のための提言	今後の履修動向等についても注視すべきであろう。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。	
年度目標	メディアスクーリングと通学課程授業との間で共有できる教材のあり方および授業方法について検討する。	
達成指標	各学科と連絡をとりつつ、通信教育関係学部長会議においてメディアスクーリングの教材作成等について議論し、教授会に報告する。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信教育関係学部長懇談会における議論をもとに、教授会においても第3回、第4回において意見交換が行われ、最終的には関係学部長懇談会からの報告内容が第5回教授会でも了承された。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通信教育関係学部長懇談会の審議結果を教授会で了承し、メディアスクーリングのコンテンツをより柔軟に提供できるようにしたことは評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。	
年度目標	レポート評価点の成績への反映方法について、現行以外の取り扱いが望ましいと言える科目の有無について検討する。	
達成指標	各学科の意見をもとに通教関連学科連絡会議において議論し、教授会に報告する。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第2回通教関連学科連絡会議において議論した内容が第4回教授会において報告された。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通教関連学科それぞれがレポート評価点の取り扱いに関する審議を行い、通教関連学科連絡会議において議論して教授会で報告・共有したことにより、目標は十分に達成された。
	改善のための提言	－
評価基準		学生の受け入れ
中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。	
年度目標	出願時に提出を求める「志願書 2」について、近年変更した学科についてはその効果の検証を始め、それ以外の学科については変更の必要性について引き続き検討する。	
達成指標	それぞれ学科会議において議論し、その結果を教授会において報告する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科の検討結果が第 3 回教授会にて報告された。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各学科ともに志願書の見直しの議論を行い、日本文学科では課題図書追加を行った。見直しと改善が進められていることを確認した。
	改善のための提言	－
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。	
年度目標	専任教員の新規採用に際しては、将来に予想される教員構成を勘案しつつ、適切に人選する。	
達成指標	人事委員会および教授会において、教員構成の現状分析と将来構想を加味しながら、専任教員の新規採用に関する審議を行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	専任教員の新規採用に関する審議が行われた人事委員会および教授会（それぞれ第 1、3、4、5、6、7、8、11 回）において審議を行った。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	人事委員会および教授会においては年齢構成や分野等を加味して審議されており、適切な採用が行われていることを確認した。
	改善のための提言	－
評価基準	学生支援	
中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。	
年度目標	スクーリング科目の種類や時期等について、学生から意見聴取するための環境を整備する。	
達成指標	通学課程で行われている学生モニター制度を通信教育課程にも導入することを、通教関連学科連絡会議において検討する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第 2 回通教関連学科連絡会議における検討結果を第 4 回教授会でも審議承認した。その結果を受けて実際に学生モニター制度を通信教育学生を対象として利用した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	所見	通信教育課程の学生に対して、初めて学生モニター制度を活用した意見聴取を行ったことは高く評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標		通信教育がなし得る社会貢献として何が望まれているか、社会人でもある学生から意見を求める。
達成指標		「学生支援」のために整備をめざす学生モニター制度などを利用して学生の意見を聴取する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生モニター制度を通教学生を対象として10月29日に実施した。聴取した意見およびそれらへの対応策については教育開発支援機構へ1月に報告書を提出し、第9回教授会でも報告した。また第3回通教関連学科連絡会議でも議論した。
	改善策	－
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	年齢や職業、居住地等において多様な通信教育学生からのニーズや要望についてまとめ、その結果を教授会のみならず教育開発支援機構と共有したことは大いに評価できる。
	改善のための提言	－
【重点目標】 スクーリング科目の種類や時期等について、学生から意見聴取するための環境を整備する。		
【目標を達成するための施策等】 学生モニター制度の利用を通信教育課程においても申請し、それを実施する。		
【年度目標達成状況総括】 従来は通学課程の学生を対象としてした学生モニター制度を、初めて通信教育課程の学生に対して実施した。まずはそれが可能となるよう関係部署へ提案して了承を得たのち、通信教育部の特性に応じた学生募集を各学科において夏期スクーリングの時期に行い、秋のモニター会議開催に至った。その結果として、今後のスクーリングの形について望むこと等、学生からの意見を聴取することができた。		

IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	2022年度に実施した学生モニター制度の成果を活用しながら、カリキュラムポリシーによりふさわしい科目の配置や設置を検討する。
達成指標	各学科において学生の声にもとづいた科目配置等について検討し、教授会で報告・共有する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標	COVID-19 禍におけるこれまでの経験をふまえて、メディアスクーリングやリアルタイム配信型のスクーリングなど、オンラインを利用したスクーリングの充実について検討する。
達成指標	今後のオンライン授業のあり方やさらなる導入の可能性について各学科で検討し、教授会で意見交換や情報共有を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標	オンラインを利用したスクーリングにおける学習成果の測定方法について検討する。
達成指標	各学科において、通信教育の特性をふまえた検討を行い、その結果を教授会で報告・共有する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
年度目標	出願時に提出を求める「志願書 2」について、近年変更した学科についてはその効果の検証を行い、それ以外の学科については変更の必要性について引き続き検討する。
達成指標	それぞれ学科会議において議論し、その結果を教授会において報告する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標	専任教員の新規採用に際しては、年齢、国際性等、将来に予想される教員構成を勘案しつつ、適切に人選する。
達成指標	人事委員会および教授会において、教員構成の現状分析と将来構想をふまえながら、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
評価基準	学生支援
中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標	スクーリング科目や通信科目に対する学生の意見を検討するとともに、今後の学生支援のあり方について議論を行う。
達成指標	学生モニターの分析をもとに、各学科で望ましい教育の機会について検討するとともに、学習支援システム等の導入・活用について検討して、教授会で情報共有する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標	学生モニターの分析をふまえて、特に社会人でもある学生からの学習の機会に関する意見を検討する。
達成指標	各学科において分析を行い、今後の対応を検討して教授会で報告・共有する。
【重点目標】 COVID-19 禍におけるこれまでの経験をふまえて、メディアスクーリングやリアルタイム配信型のスクーリングなど、オンラインを利用したスクーリングの充実について検討する。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

【目標を達成するための施策等】

大学は通信教育課程のオンライン化を強化する方針であり、その策定に先立って文学部で実施した学生モニターではメディアスクーリングや遠隔形式でのスクーリングの要望が多く出されている。これらに対応する審議を各学科および教授会でを行い、学部として適切な検討を行っていききたい。

【大学評価総評】

文学部通信教育課程は、学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供を掲げており、卒業論文を必修科目とし、丁寧に指導し、優秀論文を積極的に公表している点が高く評価できる。また、他にも特色として、対面授業、双方向授業の重視を掲げており、日本文学科では、通学課程の夜間時間帯（6、7限）の授業を、通教課程の学生にも開放した点が、高く評価できる。これは、対面・双方向の教育の導入であるだけでなく、通学課程の学生と一緒に学ぶ機会を提供することにもなっており、通教課程の新しい方向性を一つ示すものである。また、地理学科では現地研究（フィールドワーク）によっても、対面・双方向の教育を実現している。

2022年度目標は重点目標を含めて達成されており、2023年度も適切に目標設定がされている。中でも学生支援については、2022年度通信教育課程で初めて学生モニター制度を導入し、その結果を教授会や教育開発支援機構と共有している。2023年度はその結果を踏まえた学生支援のあり方について議論を行うことが目標設定されている。

定員充足率については、2013年度のカリキュラム改革（通学課程授業の開放など）を始め、広報活動、メディアスクーリング、在籍が長い学生への個々の対応など、継続的に真剣な対応・努力を続けている。入学定員の充足率が低いこと自体は問題でなく、スクーリング等で様々なきめの細かい取り組みを可能としている点は、大いに評価されるべきであろう。たとえば地理学科の「現地研究」では実際に学生と共に現地におもむいて調査をおこなうなど、通信教育では通常では考えられないような授業が提供されているが、これは入学者が多すぎないことで実施できている面があり、充足率単体だけを取り上げて問題とすることは適切でないということを痛感した。

今後、COVID-19禍から通常に戻る中で、禍中に得た経験も活かして、さらに高い水準の教育、研究が行われることを期待する。通学課程のオンライン化が進む中で、通教課程の意義を、再度、整理・確認し、一層高め、その内容を広く伝えていく中で、定員の充足率が高まることを期待したい。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された
Ⅱ自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を
確認

法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない箇所がある

<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。